

1. 目的

教育研究創発国際研修（教育研究創発国際研修Ⅰ～Ⅲ）では、教育分野における国際的リーダー人材を養成し学生はその研究成果を海外に発信することを目的とする。（WINGS 申請書より抜粋）

2. 対象科目

教育研究創発国際研修Ⅰ、教育研究創発国際研修Ⅱ、教育研究創発国際研修Ⅲ

3. 単位

教育研究創発国際研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ は各1単位とする。

原則として毎年度一科目1単位を取得し、三年間で三科目3単位を必修とする。ただし、以下の場合を除く。

なお、単位の認定は活動終了後の報告およびその承認を以て行われる。

- ・長期あるいは複数単位に相当する国際研修活動において、一度に複数単位を申請する場合。
- ・初年度に単位取得せず、二年目以降に適切な国際研修活動および単位取得を申請する場合。

4. 履修登録

履修登録は行わず、単位認定後に WINGS-CER 運営委員会 事務担当で履修登録する。

5. 教育研究創発国際研修における学術研究活動のガイドライン

以下を例として、指導教員と相談・承認の上、自身の研究内容に合わせた国際研修の計画を学生各自が立てる。その際次の①～③の活動が推奨される（ただし、各プロジェクト等における WINGS-CER 生の採択を約束するものではない）。①研究科教員の研究プロジェクトに参加する ②研究科附属センターの研究プロジェクトに参加する ③研究科の国際研修等に参加する。（別表1参照）

1 単位相当	複数単位相当
国内外の国際会議における研究発表（1回）	国外における長期国際インターンシップ（1回）
国内外における短期国際研修（1回）	国外における長期留学・長期研究指導委託（1回）
国外における短期留学・短期研究指導委託（1回）	英語論文公表（1本）
国外におけるフィールドワーク（1回）	
国内の研究会等における外国語による研究発表（複数回）	
国内外の国際会議における運営補助（複数回）	

6. 計画・申請

自身の研究内容に合わせて学生各自が国際研修の計画を立てる。計画においては指導教員と良く相談すること。「教育研究創発国際研修における学術活動計画書」に指導教員及びコース主任の承認を得た上で、WINGS-CER 運営委員会へ申請する。申請時は以下の書類を提出する。

- ① 教育研究創発国際研修における学術活動計画書
- ② 学会・国際研修・調査等の概要及び日程の分かる資料、または受入許可書（入手済みの場合）
- ③ 公表を予定している英語論文の要旨（該当する場合のみ）

## 7. 財源

5.の①②③や DC1・DC2、研究科外の奨学金や自主財源がない場合、6.の申請書類を以て WINGS-CER 運営委員会 事務担当者へ早目に相談すること。

## 8. 提出先

申請書類は実施1ヶ月前迄に、報告書類は終了1ヶ月以内に WINGS-CER 運営委員会 事務担当者へ提出する。

## 9. 審議・承認

申請、報告について委員会は随時審議を行い、結果を申請者へ通知する。

## 10. 報告

支援希望の有無に関係なく、終了1ヶ月以内に 「教育研究創発国際研修における学術活動報告書」に指導教員及びコース主任の承認を得た上で、WINGS-CER 運営委員会へ報告する。「教育研究創発国際研修における学術活動報告書」は研究科ウェブサイト等で公開する。報告時は以下の書類を提出する。

- ① 教育研究創発国際研修における学術活動報告書
- ② 英語論文およびその要旨（該当する場合のみ）
- ③ 学会・国際研修・調査等の概要及び日程の分かる資料、または受入許可書（未提出の場合）

## 11. 単位認定

WINGS-CER 運営委員会は単位認定したものについて認定後速やかに単位付与する。

## 12. 注意事項

- ・プログラム生は原則として休学できない。
- ・学術研究活動は当該年度内に実施し完了するものとする。
- ・研究指導委託、野外における教育研究活動に伴う手続きは各自で行う。
- ・国際研修に伴う保険加入およびビザ取得は各自で行う。
- ・申請の審議状況、承認結果の理由に関する問合せには応じない。

## 13. 窓口及び問合せ先

教育研究創発国際卓越大学院 事務担当（教育学部・教育学研究科 学生支援チーム国際卓越大学院担当）

03-5841-XXXX [gakuseishien@p.u-tokyo.ac.jp](mailto:gakuseishien@p.u-tokyo.ac.jp)

教育研究創発機構における教育研究活動 事務担当（教育学部・教育学研究科 国際交流室）

03-5841-0766 [gakuseishien@p.u-tokyo.ac.jp](mailto:gakuseishien@p.u-tokyo.ac.jp)

別表1 (教育学研究科および附属センター実施のプログラム)

【2020年度予定】プログラムの情報については随時更新されるのでHPで各自で確認すること。

グローバル・リーダー育成、欧州研修プログラム	
URL	<a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a>
公募時期	2020年6月(予定)
担当教員	北村友人 准教授
学術活動	○ 研究発表(協定校共催シンポジウム) × 調査
ユネスコバンコク事務所・アジア太平洋地域教育局インターンシップ	
URL	<a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a>
公募時期	2020年6月(予定)
担当教員	北村友人 准教授
学術活動	× 研究発表 ○ インターンシップ
学校教育高度化・効果検証センター 若手研究者育成プロジェクト	
URL	<a href="https://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/ystp-project/">https://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/ystp-project/</a>
公募時期	2020年5月(予定)
担当教員	教育高度化部門 草薨佳奈子 助教
学術活動	○ 研究発表 奨励 ○/× 調査
発達保育実践政策学センター 若手研究者育成プロジェクト	
URL	<a href="http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/projects_ongoing/seed_research_project/">http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/projects_ongoing/seed_research_project/</a>
公募時期	2020年5月(予定)
担当教員	野澤祥子 准教授
学術活動	○ 研究発表 ○ 調査・研究
バリアフリー教育開発研究センター ①インクルーシブ社会のための自由課題研究プロジェクト	
URL	<a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/cbfe/activity/index.html">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/cbfe/activity/index.html</a>
公募時期	2020年4月
担当教員	星加良司 准教授
学術活動	○研究発表 ○調査 ○英語論文公表
バリアフリー教育開発研究センター ②インクルーシブなビジネス組織開発に関する効果検証研究プロジェクト	
URL	<a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/cbfe/activity/index.html">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/cbfe/activity/index.html</a>
公募時期	2020年4月
担当教員	星加良司 准教授
学術活動	○研究発表 ○調査

バリアフリー教育開発研究センター ③学校現場のインクルーシビティに関する実証研究プロジェクト	
URL	<a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/cbfe/activity/index.html">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/cbfe/activity/index.html</a>
公募時期	2020年4月
担当教員	星加良司 准教授
学術活動	○研究発表 ○調査
バリアフリー教育開発研究センター ④若手研究者育成プロジェクト	
URL	<a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/cbfe/activity/index.html">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/cbfe/activity/index.html</a>
公募時期	2020年5月(予定)
担当教員	小国喜弘 教授
学術活動	○研究発表 ○調査
海洋教育センター 基盤研究プロジェクト	
URL	<a href="https://www.cole.p.u-tokyo.ac.jp/">https://www.cole.p.u-tokyo.ac.jp/</a>
担当教員	秋田喜代美 教授
研究課題名	海洋に着目した世界史カリキュラムの特質と意義—World History for Us All との比較を通して—
担当教員	小国喜弘 教授
研究課題名	国語教科書にみる海洋教育の可能性
担当教員	大塚類 准教授
研究課題名	津波被災地域の中学生の学力・学習意欲の向上—大学生との双方向的な海洋教育を軸に
担当教員	滝沢龍 准教授
研究課題名	海洋環境によるリラクゼーション介入の効果増強に関する実証的研究
担当教員	野崎大地 教授
研究課題名	ボート漕ぎ運動による体力・健康増進効果の検証